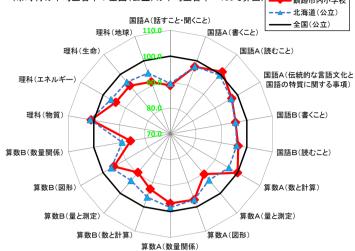
■釧路市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:28、児童数:1285名)

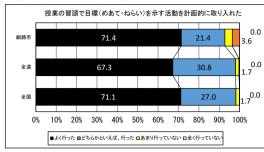
【教科全体の状況】

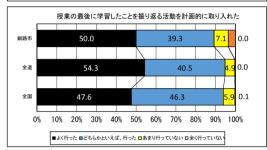
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出) → 釧路市内小学校

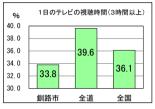


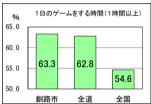
【学校質問紙調査】



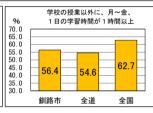


【児童質問紙調査】









【分析】

教科	0	国語A.・B、算数Aは全道の平均正答率を上回ったが、算数B、理科は全道を下回った。
児童質問紙	0 0	授業以外に1日1時間以上学習している児童が増加傾向にある。 「目標が示された上で授業が行われている」 と回答した児童の割合は全国及び全道を上 回っており、「授業の最後に振り返りが行われている」と回答した児童の割合は全道をしたいる」と回答した児童の割合は全道を上回っている。
	0	「ノートに学習の目標(めあて・ねらい)とまと めを書いている」と回答している児童の割合 は全道を上回っている。
学校質問紙	0	「家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解をよく行った」、「児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら、よく教えた」と回答した学校の割合が全国を上回っている。
	0	「授業冒頭で目標を提示した」「授業の最後にまとめや振り返りを行った」と回答した学校の割合が全国を上回っている。
	0	「ノートに学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くことをよく指導した」と回答した学校の割合が、全国及び全道を下回っている。

- 〇 【家庭での学習・生活習慣の視点】
 - ・各学校において全教職員が家庭学習の与え方 について共通理解を深め、全校的な取組を進 めている。今後は、授業と宿題、家庭学習を関 連付けることで、基礎的・基本的な知識・技能の 習得及び活用力の向上を図る。
 - ・テレビ等の視聴やゲームの使用時間が長いことから、生活リズムチェックシートを効果的に活用し、生活習慣及び、学習習慣の更なる改善を図る必要がある。
- 〇【授業改善の視点】
 - 授業の冒頭の目標提示について、教師の取組と児童の認識との差が縮小しているが、授業の最後の振り返りについては、教師の取組と児童の認識に差があり、課題が見られる。学習内容の定着を図る効果的な授業づくりをするため、教師が「目標や振り返りを徹底する」意識を高め、指導の工夫改善を積み重ねるとともに、45分間で目標提示から振り返りまでをやり切る指導過程を確立する必要がある。

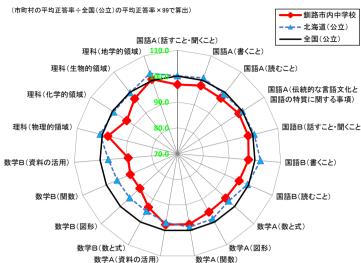
【釧路市の学力向上策】

- ◎ 全校における長期休業中の学習サポートの実施及び大学生ボランティアの活用
- ◎ 放課後学習サポートの実施と支援員の派遣
- ◎ ほっかいどうチャレンジテスト(北海道教育委員会)の活用
- ◎ ALL釧路学力・体力向上八策(釧路教育局)の活用
- ◎ 釧路市標準学力検査、生活・学習意識調査の実施
- ◎ 基礎学力検証改善委員会の開催
- ◎ 釧路市学校改善プラン(学校教育指導資料)の作成・公表(「釧路市の教育」発刊)
- ◎ わかりやすい授業の取組(ICTを活用した授業研究及び実践)
- ◎ 「家庭学習の手引き」の充実と配布
- ◎ 生活リズムチェックシートの活用拡大
- ◎ 学習規律(釧路市スタンダード)の提示と実践

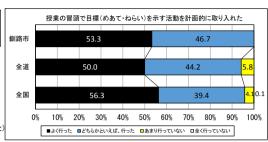
■釧路市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:15、生徒数:1230名)

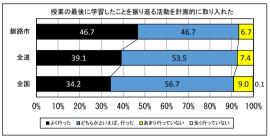
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの



【学校質問紙調査】



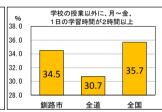


【生徒質問紙調査】









【分析】

教科	○ 全ての教科で全道の平均正答率を下回って いる。
生徒質問紙	○ 授業以外に1日2時間以上学習している生徒が減少傾向にある。 ○ 「目標が示された上で授業が行われている」と回答した生徒の割合は全国及び全道を上回っており、「授業の最後に振り返りが行われている」と回答した生徒の割合は全道を上回っている。
	○「ノートに学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回っている。
学校質問紙	○「家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解をよく行った」「生徒に家庭での学習方法等を具体例を上げながら、よく教えた」と回答した学校の割合が全国及び全道を上回っている。
	○ 「授業冒頭で目標を提示した」「授業の最後 にまとめや振り返りを行った」と回答した学校 の割合が、全道を上回っている。
	○「ノートに学習の目標(めあて・ねらい)とまと めを書くことをよく指導した」と回答した学校 の割合が、全国及び全道を下回っている。

〇 【家庭での学習・生活習慣の視点】

- ・各学校において全教職員が家庭学習の与え方について共通理解を深め、全校的な取組を進めている。今後は、授業と宿題、家庭学習を関連付けることで、基礎的・基本的な知識・技能の習得及び活用力の向上を図る。
- ・テレビ等の視聴やゲームの使用時間が長いことから、生活リズムチェックシートを効果的に活用し、生活習慣及び学習習慣の更なる改善を図る必要がある。

〇【授業改善の視点】

・授業の冒頭の目標提示について、教師の取組と生徒の認識との差が縮小しているが、授業の最後の振り返りについては、教師の取組と生徒の認識に差があり、課題が見られる。学習内容の定着を図る効果的な授業づくりをするため、教師が「目標や振り返りを徹底する」意識を高め、指導の工夫改善を積み重ねるとともに、50分間で目標提示から振り返りまでをやり切る指導過程を確立する必要がある。

【釧路市の学力向上策】

- ◎ 全校における長期休業中の学習サポートの実施及び大学生ボランティアの活用
- ◎ 放課後学習サポートの実施と支援員の派遣
- ◎ ほっかいどうチャレンジテスト(北海道教育委員会)の活用
- ◎ ALL釧路学力·体力向上八策(釧路教育局)の活用
- ◎ 釧路市標準学力検査、生活・学習意識調査の実施
- ◎ 基礎学力検証改善委員会の開催
- ◎ 釧路市学校改善プラン(学校教育指導資料)の作成・公表(「釧路市の教育」発刊)
- ◎ わかりやすい授業の取組(ICTを活用した授業研究及び実践)
- ◎ 「家庭学習の手引き」の充実と配布
- ◎ 生活リズムチェックシートの活用拡大
- ◎ 学習規律(釧路市スタンダード)の提示と実践

- 356 -